

ワークショップ報告

2月15日(日)
9:30~11:30

2015年2月14日(土)~15日(日) 1泊2日 自然体験フォーラム2015 実施報告

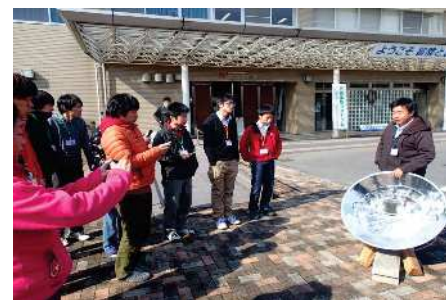


『パパのための森あそびワークショップ』

ママプロぐんまの都丸さんのもと、和やかな雰囲気で行ったワークショップが進みました。まずは、自分を見つめ直す時間。人生におけるキーワードを3つ選び、そのキーワードに関連する体験を思い起こしました。そしてキーワードにつながる小さい頃のエピソードを考え、グループでシェア、意図開きをしました。あなたが一番伝えたいメッセージは何ですか?を考えた時、その人自身の原体験が、伝えたいことの源となっていることに気づかされました。

『観光振興と環境保全について』

観光振興と環境保全は、「産業」と「自然」から真逆のイメージと思われがちですが、実は「資源」というキーワードで深く結びついていました。前橋市赤城少年自然の家 丸山所長が、自然体験活動はどちらに組するのか投げかけ、赤城山を例に観光振興と環境保全について講義しました。その後、参加者それぞれの資源=宝物が何なのかをあらためて考え、その宝物を求める旅をプログラム化して、一人ひとりその思いを語りあいました。



『日本と世界を結ぶソーラークッカー』

ソーラークッカー(以下SC)についての講義と実習を行いました。SCは太陽光のエネルギーを直接利用して調理をする道具です。薪の節約のほか、発展途上国での女性の労働を軽減する効果もあり、とても必要な調理道具であること、発展途上国はじめ世界のいたる所でSCの普及活動が進められていることを知りました。実習はSCを自作し、太陽光でゆで卵を作り、みんな感心しながらゆで卵を試食していました。

『企業と協働の在り方を探る』

サンデンファシリティの柴崎さんがコーディネーターとなり、本音を交えた話し合いが行われました。「企業活動を行いながら、社会への貢献をアピールしたい」、「団体として、活動はしたいが資金や場所がない」。そんな意見が交わされました。立場、現状、想いは様々でしたが、最終的に共通しているのは「自分たちだけで解決できないこと」を知り、補いあうこと。一つの目的を達成できる協働の形を探り続けることでした。



自然体験フォーラム2015 ~想いでつながる、そして、はじまる~

自然体験に関わる、またはこれから関わりたいと思っている147名が集い、語りあい、笑いあい、時に涙した2日間。群馬を中心とした自然体験の輪がつながりはじめた瞬間でした。この「つながり」は、まだまだこれからですが、可能性は無限大。

きっとここから新たな「はじまり」がたくさん生まれていきます。

また来年、みなさんに会えることを楽しみにしています。

主催：自然体験フォーラム実行委員会

協力：小川キャンパル、希望食品株式会社

会場：国立赤城青少年交流の家

自然体験フォーラム2016
開催決定!!

2016年2月13日(土)~14日(日)

国立赤城青少年交流の家 問い合わせ先：027-289-7224

ワークショップ報告

2月14日(土)
13:45~15:45



『赤城自然園の紹介と森林セラピー』

赤城自然園 管理運営担当の国兼さんが、はじめに、赤城自然園の特徴について紹介。次に、森林セラピーの効果について説明しました。赤城自然園は、生理心理実験により癒しの効果があることが確認され、「森林セラピー基地」に認定されています。スライドや映像などの資料を交えながら、森林が持つ癒しの効果について学ぶことができました。

『自然体験・農体験』

「お米ができる田んぼは、“人が手を加えたもの”と“そのままの自然”が、何対何の割合か」という問いに考え込む参加者。日頃から自然を意識した活動をしているものの、その問いを前に、自然とは何か、人間とは何か等の根源的な問いが必要と感じる瞬間でした。ワークショップの前半に自然と人間との共生の在り方を考えるものを行い、後半に自然を感じる「わら縄づくり」体験を行い、自然と人間の理解を深めました。

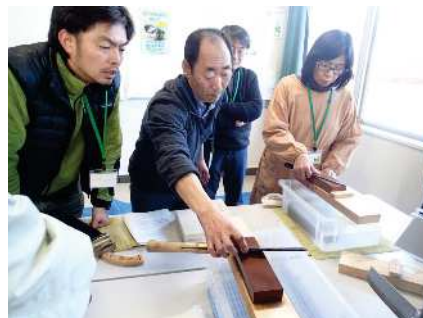


『森のようちえんワークショップ』

NPO法人あかぎの森のようちえん代表の橋島隼人さんが、幼児の自然体験教育についてのワークショップを行いました。参加者自身の子どもの時代の体験も振り返りながら、自然体験教育の効果や意義について、グループに分かれて活発に意見交換を行いました。いまの幼児教育の否定ではなく、+αとして自然体験教育も取り入れていくのが望ましいでは、との橋島さんの言葉に参加者は大きく頷いていました。

『刃物研ぎ講座』

「包丁・小刀・鉋」など日頃道具として使用している刃物の「切れ味」が悪くなってしまった時の対処方法として「刃物を研ぐ」ことが重要となります。刃物の性質である「片刃、両刃、鋼の状況」研ぐための道具、砥石の「性質、形状、適正」を基に、欠損、丸まりなどのある刃先を鋭角に整える（鋼を出す）方法を、持参した包丁などを使って刃物の状況を把握し、研ぐ角度や方向、力の入れ具合などを具体的に学びました。



ワークショップ報告

2月14日(土)
16:00~18:00



『県森の環境教育プログラムどう使う?』

関東の水源地、高原山の山腹に広大な敷地をもつ栃木県民の森。花や木の実、動物、昆虫などの写真を見ながら、それらを活用したプログラムについて、県民の森職員の遠山あづささんが解説しました。次に、グループにわかれて、「自分なら県民の森でどんなプログラムを考えるか」、また「そのプログラムについてはどのような心配事があるか」など、豊かなフィールドを活かすための意見を出しあいました。

『ウィルダネスファーストエイド』

都市部の応急手当とウィルダネス状況下での対応の違いについて説明を受け、その後4~5名のグループワークを中心に実技をまじえて進められました。参加者からの質問をその都度受け、活発な意見交換が行われていました。事例として、傷病者への対応をどのように行うかをグループで話し合い、役割分担を決めて救助の仕方のロールプレイを行いました。その後、WMAJの豊田さんから実際の対応の仕方を学び終了となりました。



『アドベンチャーレースの魅力と群馬』

アドベンチャーレースとは、自然の中に設定されたコースをラン、マウンテンバイク、カヌーなどで踏破して所要タイムを競う、チームによる耐久レースです。今回は日本のアドベンチャーレース界の第一人者である田中正人氏(EAST WIND)を講師に迎え、レースの魅力について語っていただきました。1週間で600kmを超える過酷なレースの中で脅威となるのは自然だけではなく人間関係の崩壊。極限状態の中でいかにチームワークを養うか、とても考えさせられる内容でした。

『自然体験で生きていく』

国立赤城青少年交流の家 高瀬宏樹さんが自然体験活動に関わるメンバー参加型のワークショップを行いました。実際に行っている活動の紹介、人生で一番楽しかった体験、自然体験を仕事とすることの大変さなどについて、意見交換をしました。ボランティアとしての関わりと仕事としての関わり、それぞれの悩みや不満、楽しさ。明確な答えが出る議論では無かったものの「人と繋がることで自然体験の幅が広がるのではないか」、そんなイメージが持てた話しあいでした。

